



JP5201465

B01B Page 1



HANGING TOOL FOR CAN-SHAPED CONTAINER

Patent Number: JP5201465
Publication date: 1993-08-10
Inventor(s): NAGAOKA KUNJI
Applicant(s):: NAGASA KAKO KK
Requested Patent: ☐ JP5201465
Application Number: JP19920007749 19920120
Priority Number(s):
IPC Classification: B65D67/02
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE:To carry even heavy weight can-shaped containers safely by maintaining such merits of a conventional hanging tool for can-shaped containers as portability, and low cost, etc., and make the automatic packing possible.

CONSTITUTION:For a hanging tool for can-shaped containers, consisting of a thin synthetic resin main body 2 on which holding parts 1 to hold can-shaped containers such as canned beer or canned juices, etc., and a grip member 4 being fixed on the rear surface of the main body 2 by inserting both end parts from slits 3 which are formed on the upper surface of the main body 2, bifurcated attaching part 4b are formed at both end parts of the grip member 4, and the bifurcated attaching part 4b are bent to the mutually opposite directions, and fixed on the rear surface of the main body 2.

Data supplied from the esp@cenet database - 12

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-201465

(43) 公開日 平成5年(1993)8月10日

(51) Int.Cl.⁵

B 6 5 D 67/02

識別記号

庁内整理番号

F 7191-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全4頁)

(21) 出願番号 特願平4-7749

(22) 出願日 平成4年(1992)1月20日

(71) 出願人 591150845

永佐化工株式会社

福岡県福岡市東区箱崎ふ頭5丁目9番27号

(72) 発明者 永岡 訓二

福岡県福岡市東区青葉三丁目27番8号

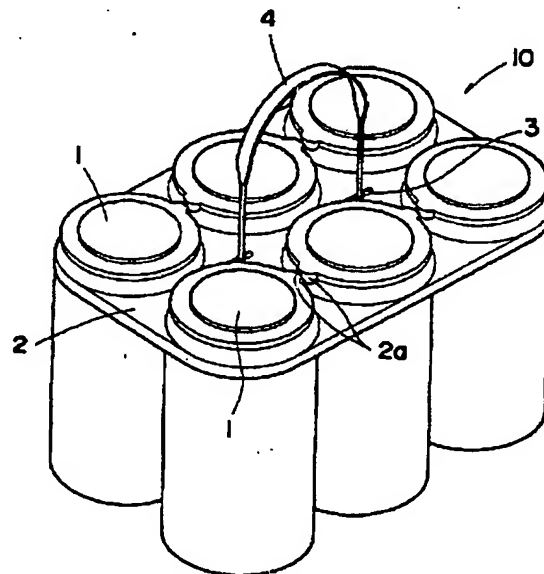
(74) 代理人 弁理士 小堀 益

(54) 【発明の名称】 缶状容器の吊下げ具

(57) 【要約】

【目的】 携帯性、低コスト化等、従来の缶状容器の吊下げ具の利点を保持しながら、しかも重量のある缶状容器でも安全に持ち運びできるようにし、また自動梱包化を可能にする。

【構成】 缶ビールや缶ジュース等の缶状容器Bを保持する保持部1を形成した薄肉状の合成樹脂製本体2と、この本体2上面に形成されたスリット3から両端部を挿入して本体2裏面に固着した把手部材4とからなる缶状容器の吊下げ具において、把手部材4の両端部に二股状取付部4bを形成し、二股状取付部4bを互いに逆方向に折り曲げて本体2裏面に固着する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 缶ビールや缶ジュース等の缶状容器を保持する保持部を形成した薄肉状の合成樹脂製本体と、この本体上面に形成されたスリットから両端部を挿入して前記本体裏面に固着した把手部材とからなる缶状容器の吊下げ具において、前記把手部材の両端部に二股状取付部を形成し、該二股状取付部を互いに逆方向に折り曲げて前記本体裏面に固着したことを特徴とする缶状容器の吊下げ具。

【請求項2】 前記本体の表面に、前記把手部材を係止 10 収納する収納手段を形成したことを特徴とする請求項1記載の缶状容器の吊下げ具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は缶状容器の吊下げ具、より詳しくは、缶ビールや缶ジュース等の複数の缶状容器を吊り下げて持ち運ぶことのできる缶状容器の吊下げ具に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来から、取扱いの便利さや、また自動販売機の普及とも相俟って、缶ビールや缶ジュース等が多量に生産・消費されている。このような缶ビール等を 20 購入するときには、1本や2本の場合には手に持って簡単に持ち運びができるが、多量になった場合には両手で持ち運ぶことすら困難である。

【0003】 このために、従来、多量に缶ビールを購入した場合の持ち運び用として、熱可塑性合成樹脂製の手提げバッグ等が小売店店頭で利用されている。しかしながらこの手提げバッグは、酒問屋又は酒屋等で顧客が購入する際に袋に入れる必要があるため、わずらわしさを 30 生じているのが現状である。

【0004】 そこで、このような欠点を解消し、持ち運びに便利でありながら、しかも製造コストのかからないものとして、缶ビール等を吊り下げて運搬することができる缶状容器の吊下げ具が提案されている。

【0005】 この缶状容器の吊下げ具30は、図7に示すように、缶ビールBを挟み込む突起を形成した缶保持部31を有する薄肉状の合成樹脂製本体32と、この本体32の上部に取付けられた把手部材33とで構成されている。この吊下げ具30によると、安価でしかも6本の缶ビールを同時に吊り下げてそのまま運搬することができるために大変重宝なものであり、また缶の蓋の役目 40 も果たし衛生的でもある。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、この吊下げ具30の把手部材33は、図8の断面図に示すように、帯状の把手部材端部33aを、本体32の上面に設けた2箇所のスリット34から挿入して一方に折り曲げ、この折り曲げ部分を本体32の裏面に熱融着によって固着されたものである。

2

【0007】 このように、従来の吊下げ具本体32と把手部材33とは、スリット34の片側方向のみを固着しているため、特に重量のある缶ビールを吊り下げた場合、本体のスリット34から把手部材33の端部33a方向へ引き裂かれたり、端部33a周辺の周辺部の吊下げ具本体32の破損を招き、甚だしい場合には把手部材33そのものが外れてしまうという問題がある。

【0008】 また、従来の缶状容器の吊下げ具30の把手部材33は、図7及び図8に示すように吊下げ具本体32の裏面に熱融着したのみで、把手部材33が立ち上がった横に寝かせただけの状態でビール製造メーカー等へ出荷されるため、把手部材が邪魔になり、自動梱包化を妨げている。

【0009】 本発明が解決すべき課題は、携帯性、低コスト化等、従来の缶状容器の吊下げ具の利点を保持しながら、しかも重量のある缶状容器でも安全に持ち運びできるようにすること、また自動梱包化を可能にすることにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】 本発明は、上記課題を解決するために、缶ビールや缶ジュース等の缶状容器を保持する保持部を形成した薄肉状の合成樹脂製本体と、この本体上面に形成されたスリットから両端部を挿入して前記本体裏面に固着した把手部材とからなる缶状容器の吊下げ具において、前記把手部材の両端部に二股状取付部を形成し、該二股状取付部を互いに逆方向に折り曲げて前記本体裏面に固着したことを特徴とする。ここで、合成樹脂製本体表面に把手部材を係止収納する収納手段を設けることができる。また、把手部材挿入用のスリット周りをプラスチックフィルムによって補強することも 50 できる。

【0011】 把手部材としては、厚み0.5～1.0mm程度の合成樹脂で形成することができ、二股状取付部の長さとしては、充分な固着面積を確保するために、缶ビール6本程度であれば0.8～1.4cm程度のものが好ましい。また、充分な強度を有し、しかも二股状取付部を容易に折り曲げて本体の裏面に密着できるようにするためには、合成樹脂や樹脂を含浸させた帯状紐で形成するのが好ましい。

【0012】

【作用】 本発明の缶状容器の吊下げ具においては、把手部材の端部に形成された二股を互いに逆方向に折り曲げて本体裏面に固着しており、このため、重量のある缶ビールを吊り下げた際にも、その荷重がスリットの両面に均等に分散され、従来のように片側に集中することがなくなる。また、本体表面に把手を収納することにより、把手自体が邪魔になることがない。

【0013】

【実施例】 図1は本発明の缶状容器の吊下げ具の使用時 50 における斜視図、図2は把手部材のみを示す斜視図であ

る。

【0014】本実施例の缶状容器の吊下げ具10は、缶ビールや缶ジュース等の缶状容器を保持する保持部1を形成した薄肉状の合成樹脂製本体2と、この本体2上面に形成されたスリット3から両端部を挿入して本体2裏面に固着された把手部材4とから構成されている。

【0015】本体2は厚み0.1～1.0mmの合成樹脂製であり、真空成型や射出成型によって安価に製造することができる。この本体2にはビール缶やジュース缶を保持する保持部1が形成され、上面には図5の斜視図、図6の平面図に示すように把手部材4を本体2表面に係止収納する収納手段としての突起2aを形成している。また、スリット3のまわりには、図3の平面図及び図4の断面図に示すようにプラスチックフィルムを接着した補強部5が形成されている。

【0016】把手部材4は、把手部4aを偏平に形成し、この把手部4aに建設した両端を断面円形状に、さらに端部には二股状取付部4bを形成している。ここで、把手部4aは、持ちやすさを考慮して厚み2mm、幅7mmとし、二股状取付部4bは、缶ビール6本程度の重量に耐えられるように厚み1mm、幅12mm、長さ1.5cmとした。また、二股状取付部4bを互いに逆方向に開き、本体2の裏面に容易に密着させることができるように合成樹脂で製作している。この把手部材4はその端部、すなわち二股状取付部4bを本体2のスリット3から挿入し、取付部4bを両側に開いて、熱融着やホットメルトなどによって本体2の裏面に固着されている。

【0017】このように、本実施例の缶状容器の吊下げ具は、把手部材4挿入用のスリット3周りを補強部5によって補強し、さらにこの補強部5に把手部材4の端部に形成された二股状取付部4bを互いに逆方向に折り曲げて本体2裏面に固着している。このため、重量のある缶ビールを吊り下げた際にも、その荷重がスリット3の両面に均等に分散され、従来のように片側に集中して外れることもない。

【0018】また、把手部材4を本体2の表面に密着状

態で収納できるため、運搬時に嵩張らず、また自動梱包化を可能とする。

【0019】

【発明の効果】以上に述べたように本発明によって以下の効果を奏することができる。

【0020】① 缶状容器の吊下げ具の製造コストを上げることなく、重量のある缶状容器でも安全に吊り下げられるようになった。

【0021】② 把手部材が吊下げ具本体表面に収納されるため嵩張らず、梱包が容易になるとともに、ビール缶等への自動化取付けが可能となった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例の缶状容器の吊下げ具を使用状態で示す斜視図である。

【図2】把手部材のみを示す斜視図である。

【図3】図1に示す缶状容器の吊下げ具のスリット周辺の平面図である。

【図4】図1に示す缶状容器の吊下げ具のスリット周辺の断面図である。

【図5】本実施例の缶状容器の吊下げ具の斜視図である。

【図6】本実施例の缶状容器の吊下げ具の平面図である。

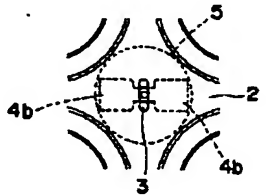
【図7】従来の缶状容器の吊下げ具の斜視図である。

【図8】従来の缶状容器の吊下げ具におけるスリット周辺の断面図である。

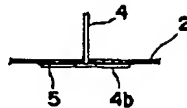
【符号の説明】

- 1 保持部
- 2 本体
- 2a 突起
- 3 スリット
- 4 把手部材
- 4a 把手部
- 4b 取付部
- 5 補強部
- 10 缶状容器の吊下げ具
- B 缶ビール

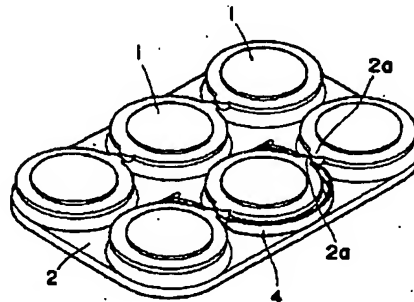
【図3】



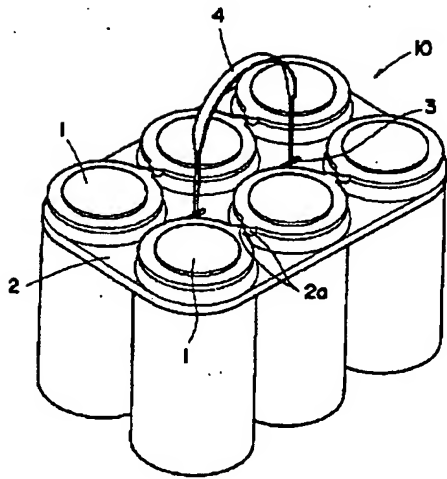
【図4】



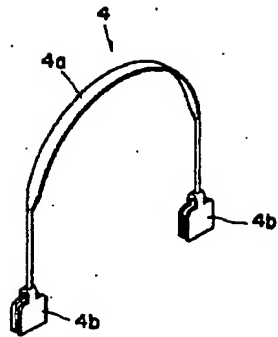
【図5】



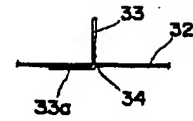
【図1】



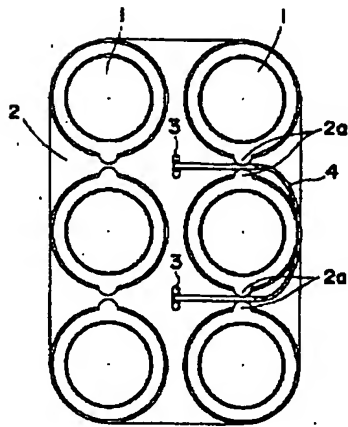
【図2】



【図8】



【図6】



【図7】

